

大豆「すずほのか」の栽培法（播種期）

古川農業試験場

1 取り上げた理由

平成19年度に本県奨励品種として採用された納豆適性の高い小粒大豆「すずほのか」の栽培では、早生で耐倒伏性に優れる特性を活かし、既存の小粒大豆奨励品種「コスズ」の慣行（6月25日～7月上旬）に加え、より遅い播種期への適応が期待される。そこで、「コスズ」慣行及びより遅い播種期への適応性を検討したところ、「コスズ」慣行の播種期における栽植様式と、狭畦密植による7月中旬播種への適応性が確認されたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 「すずほのか」において、「コスズ」慣行の播種期では「コスズ」と同じ条間75cm、株間10cm 2粒播（栽植密度27本）により「コスズ」と同等の収量が確保できる。また、倒伏程度は「コスズ」より低い。ただし、この栽植様式では、7月中旬・下旬播種では減収する（図1）。
- 2) 「すずほのか」において、7月中旬播種でも狭畦密植（40～44本/m²）により「コスズ」の慣行栽培と同等の収量が得られる（図2、3）。

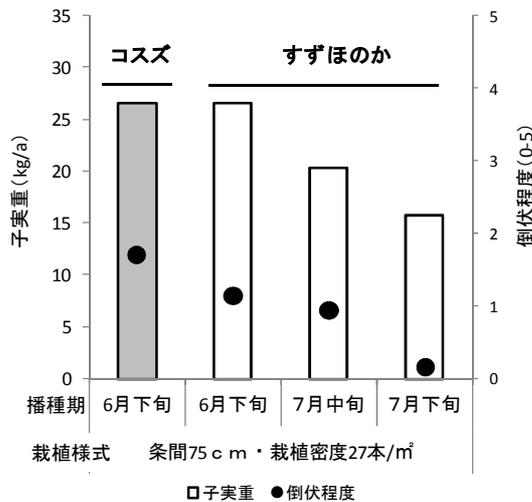


図1 「コスズ」慣行の栽植様式における、「すずほのか」の播種期と子実重，倒伏程度との関係（平成17～18，21年平均値）

注1) 横軸の上段は播種期を表す。
注2) 倒伏程度は0（無）～5（甚）の6段階で表示。

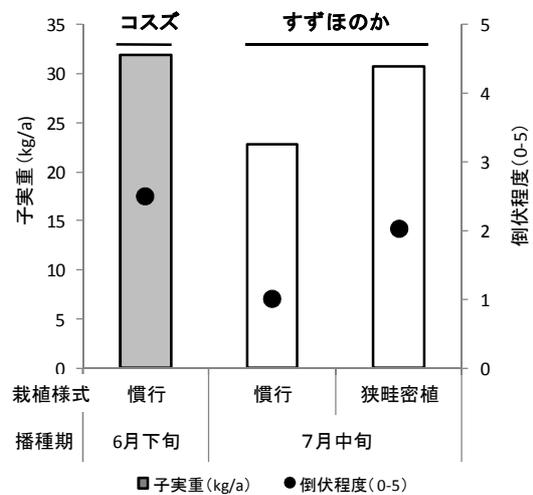


図2 「すずほのか」の7月中旬における栽植様式（「コスズ」慣行及び狭畦密植）と子実重，倒伏程度との関係（平成21年）

注1) 横軸上段の慣行は、条間75cm、株間10cm、狭畦密植は栽植密度40～44本/m²、条間25～37.5cm
注2) 倒伏程度は0（無）～5（甚）の6段階で表示。

3 利活用の留意点

- 1) ここに示したデータは、古川農業試験場（北部平坦）において得られたものである。
- 2) 「すずほのか」の特性については、普及に移す技術第83号を参照のこと。
- 3) 狭畦密植栽培は、倒伏の危険性が高まるため7月中旬播種に限る。

（問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新品種栽培法の早期確立 平成17～18年

麦類・大豆の加工適性を重視した品種選定と栽培法の確立 平成19～21年

2) 参考データ

a. 「すずほのか」の成熟期は、7月10日播種で「コスズ」6月下旬播種と同程度である（表1）

表1 「すずほのか」の播種期別の成熟期と、対照の「コスズ」との比較（平成17～21年の5か年平均）

播種期	成熟期		対照差
	すずほのか	コスズ	
6月25日	10月10日 ¹⁾	10月16日	-6日
7月10日	10月17日	10月22日 ²⁾	-5日
7月25日	10月24日	10月26日 ³⁾	-2日

注1) 平成17, 18, 21年の平均

注2) 平成17, 18, 20年の平均

注3) 平成17, 18年の平均

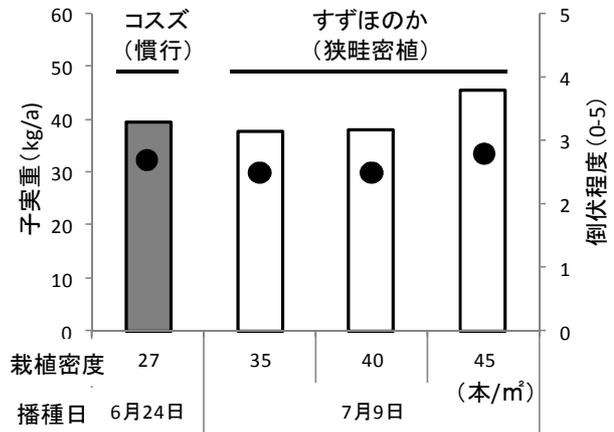


図3 「すずほのか」の播種期、栽培密度と子実重、倒伏程度との関係（平成20年）

注1) 横軸上段は栽培密度(本/m²)、下段は播種日を示す。

注2) 倒伏程度は0(無) -5(甚)の6段階で表示。

注3) 栽培密度の35, 40, 45本/m²における条間はそれぞれ37.5, 25, 30cmである

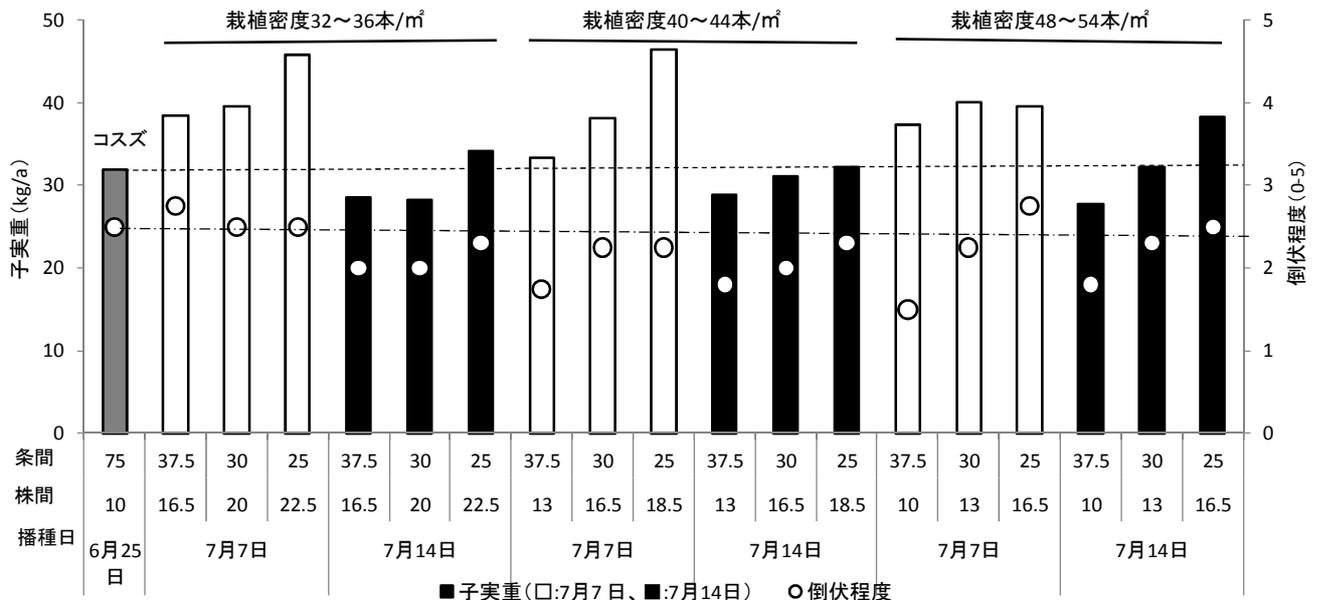


図4 「すずほのか」の播種期、栽培様式と子実重、倒伏程度との関係（平成21年）

注1) 図中、横軸上段は条間、以下、株間、播種日を示す。

注2) 倒伏程度は0(無) -5(甚)の6段階で表示。

注3) 図中、破線は子実重の、長鎖線は倒伏程度の対照「コスズ」慣行との比較を示す補助線である。

3) 発表論文等 なし